

SHIGA SOCIAL EDUCATION

一人ひとりが幸せになる学び、社会がよりよくなる学びを地域に広げたい

第1回滋賀県社会教育委員会議を開催！

「これからの地域を支える人材育成・確保 のための社会教育・生涯学習のあり方」

過日、7月17日に第1回滋賀県社会教育委員会議を大津合同庁舎にて開催いたしました。

今期は、「これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方」をテーマに15名の社会教育委員の方々に委嘱し、2年間の任期の中で議論していきます。

今回は第1回ということで委員の皆さんの自己紹介、前半に滋賀の地域における人材育成について現状や課題について話し合い、後半は今年度の県生涯学習課の関連事業について様々な立場からのご意見をいただきました。

以下に会議の内容の概略と新しい委員の皆さんの紹介を含め、今後、滋賀県社会教育委員会議がどのような議論をしているか、その一端をご紹介します。

社会は急速に変化をしております。コロナ以外でも様々な変化があり、全ての人が知恵を出し合いながら、工夫して新しい働き方、新しいライフスタイルを作っていかなければならない社会だと考えております。

そうした中、滋賀の教育大綱を策定し「人生100年を見据えた『共に生きる』滋賀の教育」の実現に向けて取組を進めています。

そこでもやはり多様な人々との交わり、生涯を通じて学んで地域に生かしていくこと、人と人、人と

地域が共につながり連携することが大切だろうと思っております。



教育長 福永忠克

こうした社会の中で、滋賀の地域を支える人づくりについて、それぞれの地域の現状を踏まえながら、滋賀が持続可能な地域社会へとつながっていくためのご議論を皆様をお願いしたいと思います。

↑ 教育長開会挨拶の一部抜粋



- 【日 程】 9:30-10:00 開会挨拶・自己紹介
10:00-11:50 議事 ①議長・副議長の選出
②地域における人材育成・確保の現状と課題
③生涯学習課事業について
11:50-12:00 閉会挨拶・事務連絡

*詳細は次項へ



SHIGA SOCIAL EDUCATION



これからの地域を支える人材育成・確保のための 社会教育・生涯学習のあり方について

★ テーマの設定について ★

（予測できない未来と社会教育の課題解決に向けて）

①多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応

- 人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化
社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsに向けた取組等
→持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要
- 人生100年時代の到来、Society5.0実現の提唱等
→誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に向けた取組が必要

②新たな社会教育の方向性

- 地域における社会教育の役割の再確認
→学びと活動の好循環による人づくり、つながりづくり、地域づくり
- 社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり
→ネットワーク型行政の実質化と地域の学びと活動を活性化する人材の活躍



これからの地域を支える人材育成・確保 のための社会教育・生涯学習のあり方

滋賀県社会教育委員の皆さんを紹介します

〔所属・お名前・自己紹介・区分→〕

学校教育 社会教育 家庭教育 学識者 公募委員

多賀町立大滝小学校長
藤谷 忍
・昔は200名ぐらいいた子どもが現在は49人です。こういった学校が今後どうやって、存続していくかということを使命として大滝小学校復興プロジェクトに取り組んでいます。

甲賀市立甲賀中学校長
永井 泉
・学校ではコロナの対応をしながら教育活動をしています。子どもたちを中心にした思いを大切に活動や行事に取り組んでいきたいです。

県立国際情報高等学校長
望月 美希
・本校は国際化、情報化の社会に必要な人材を育成するという目的で昭和62年に設立されました。多くの地元企業に求人をしていただき、進路実現に向けても頑張っています。

★ 具体的審議内容とスケジュール ★

【審議方針】

- 審議の進め方については、各委員からの話題提供や関係課からの情報提供をいただき、より具体的に議論を深める。また、研究調査のための社会教育活動の現場視察やオンライン会議等も活用しながら次の議論に活かす。最終的に教育委員会で意見交換する機会も設定し、県の施策に反映することをめざす。

【審議内容】

- 既存の社会教育事業、団体の変化に伴う社会教育のあり方
- 企業、NPO、大学など多様な主体との連携協働を促進するネットワーク型行政等の実現について
- 地域の学びと活動を活性化するための施策の推進について
- 滋賀の次世代を担う地域リーダーのためのプラットフォーム
- 「人生100年時代の地域における学びと活躍推進事業」における他分野連携型研修、地域活動メニューフェアの展望

【今後の予定】（調整により変更の可能性有）

- 第1回 令和2年7月 テーマについて、現状と課題の整理
8～12月 ZOOM会議・視察
- 第2回 令和3年2月 次世代を担う地域リーダー育成について
5～11月 教育委員との意見交換（ふれあい教育対談）予定
- 第3回 令和3年7月 地域の学びと活動の活性化を図る方策について
8～12月 ZOOM会議・視察 予定
- 第4回 令和4年2月 審議のまとめ「滋賀の社会教育未来図」

県社会教育委員連絡協議会長
板倉 正直
・社会教育委員という存在自体が、どんどん認知されなくなっている。そんな危機感を持っています。答えのない未来において社会教育が見える存在にしていきたいです。

県PTA連絡協議会顧問
橘 円
・PTAは保護者の方が、子育てを通じて自分を成長させたり、異なる他者とういう風に折り合いをつけ社会に参画していくか、そんな入り口になる所です。できるだけ多くの方に参画をしていただけたらと考えています。

彦根市東中学校
地域学校協働活動推進員
富永 美砂穂
・彦根市で地域コーディネーターをしています。近年地域の力が弱くなってきて、また学校も様々な課題がありそのような状況を見ると、やはり地域学校協働活動が重要なことだと感じています。

日本青年団連絡協議会副会長
滋賀県青年団連合会顧問
藤原 麻美
・「青年団ってまだあるの？」と思っておられる方はたくさんおられますが、県内に約10団体活動しています。何とか自分たちの力で地域を盛り上げて行こうとしています。

SHIGA SOCIAL EDUCATION

前項にあるように、今期のテーマは「これからの地域を支える人材育成・確保」を柱として地域の社会教育においていかに人材育成や確保を行いながら、どのような未来の生涯学習社会、共生社会をつくっていくかを議論していくこととなります。

今回は第1回ということで、委員の皆様からは、お住まいの地域や各所属(学校・団体・企業等)において、「これからの人材育成・確保」について地域の現状や課題についてお話しいただきました。

以下、会議中の発言より一部抜粋↓

地域の人材育成の現状

「地域で自分が活動している中では、参画する人が以前より減少している気がします。目の前にある地域課題などを学校教育とか子どもたちが自ら問題として捉えるようにする。そうすると大人になった時にその課題に向き合うとか、地域に参画するというハードルや負担を感じる事がなく自然と地域に関われるつながりができると思っています。」

「子どもたちは、学校教育を終えて大人になると、青年団という受け皿があり、そして青年団を卒業すると、子育ての時期に入りPTAの活動とか地域のつながりができる。そうすると地域の課題に対して、自分たちの活動をライフワークとして続けていける。そんな縦のつながりをいかに連携させていくか、その連携が人づくり、人材育成において大切ではないでしょうか。」

地域課題を解決できる人を結び次世代につなげる

「話し合いの中で、次世代につながる人材育成について、3つの視点が出されました。1つ目は、地域の中で子どもを育てるという関係性をどのようにつくっていくか。2つ目は、若者が地域に搾取されない関係性をどうやって作るか。そして3つ目は、地域の外と中の付き合いをどうデザインするか。」



【地域とともに学校林を再生させた小学校の取組】

「コミュニティ・スクールで今まで地域の人が学校を支援してきてくださったが、自分で考える中学生が地域に行って何かしらの貢献をしています。地域防災や地域カフェ、商店街の活性化など大人顔負けの行動力とアイデアで地域の課題を解決しようとしている。学校が社会に開かれ、地域が学校と協働して地域課題を解決する時代になってきている。」



【住民参画のワークショップをファシリテートする社教主事】

社会教育主事の育成を

「滋賀県では、地域での社会教育をつなげる人材であった派遣社会教育主事というものがなくなって、今後、どのように社会教育活動を維持していくが、社会教育の専門職である社会教育主事の育成が課題だと思う。」

「滋賀大学でも学生が社会教育主事の資格に注目しない。資格をとって、その後どういった分野で活動できるかビジョンが十分把握できていないのが現状。」

縦割りを超え、個人でつながる必要性を感じる

「今、改めてコロナ禍の中で、本当に個人でつながる必要性であったり、縦で割れていた組織だったり、今まで交えなかった人たちがちゃんと交わらなければいけないと気づきだしたし、その勢いはものすごく加速したと思う。同時にデジタルがこれだけ進んでオンラインのミーティングも簡単にできるようになって、みんなどんどん活用してつながろうという時代の変化を感じています。」

次項につづく→

子育て応援カフェLOCO代表

宮本 麻里

・子育て真っ最中です。子育て支援とお母さんの働く支援、そしてシニア層の暮らしの支援ということで、幅広い事業を行いながらメインはカフェの運営をしながら起業や再就職の支援なども委託をいただいで運営しています。

立命館大学客員教授

金井 文宏

・大学では、学校や地域そして企業・NPOの境界を超えた場所で子どもや青年を教育していくことはどういうことかを研究しています。高校でも「総合的な探究の時間」で地域課題をいかに解決していくことを授業とする時代となりました。

滋賀ダイハツ株式会社取締役

平尾 香子

・学校に向いて福祉車両で福祉体験をしながら、相手の気持ちを考えようという出前授業をしています。また、「滋賀掃除に学ぶ会」では、トイレ掃除からたくさんの方のことを学べることを伝える取り組みをしています。

公募委員(ひだまり学舎)

吉田 尚子

・ひだまり学舎という古民家をベースにした「くらし育て組」という一般社団法人を立ち上げて活動をしています。ライフワークとして「頼り、頼られ、家族で家のこと」をテーマに家事について考える講座などもしています。

滋賀大学教育学部准教授

藤村 祐子

・大学も授業は全てオンラインになって、教員も在宅勤務になっていきます。コロナ禍の変化の中でよかった点は、学びの形態がかなり多様になったことです。状況は苦しいですが、チャンスだと思っています。教育行政を専門としています。

滋賀県人権教育研究会会長

高野 真知子

・滋賀県人権教育研究会は会員9,000人あまり、そして歴史は70年あまりあります。家庭のしんどさから学校に来れない子どもたち、その子の進路保障をしていこうというのがスタートで発足しました。

県社会福祉協議会地域福祉リーダー

加藤 芳顕

・様々な生きづらさを抱えた方の社会的な孤立を防いで、地域の中でつながりを感じて役割を持ちながら、生き生きと暮らすための支援をしています。当協議会の理念は「ひたすらなるつながり」です。

公募委員(まちづくり会社まっせ)

田口 真太郎

・近江八幡市の「まっせ」というまちづくり会社で、地方創生の総合戦略をつくることから、地元の方と一緒に総合計画を作りながら、人材育成の未来キャンパスを立ち上げ地域活動のサポーター支援をしています。

SHIGA SOCIAL EDUCATION

世代間のギャップをどう埋めていくか

「オンライン化が進むにつれて、若い世代や対応できる世代となかなかできない世代の格差が広がっていて、若い世代が上の世代にどうして考え方を変えてくれないのだろうという声を聞く、世代を超えたつながりをいかに作っていくかが今後の課題となる。」

ICTの学習効果は高齢者にもあるので、ぜひ教えてほしい

「私も60代なので、ICTは得意な方ではないが、メールとLINE、そしてZOOMは覚えました。ZOOMは目の前にみんなの顔が現れて、1対1のコミュニケーションもできる。一回経験するとこんなに便利なものがあるのかと驚いた。学習効果は年配のものもあるので、ぜひ使ってみて欲しい。」

オンラインから漏れる人が本当はつながる必要がある人

「これからつながる方法として、インターネットやスマホなどオンラインの活用を考えた時、そこからもれてくる人たちが、本当は1番つながっていかないといけないと思っています。今後、デジタル格差が生まれていくのではないかと危惧しています。」

「団体や取組を支援するという心はすごく大切ですが、これからはどのように継続していくか、事業として運営してしていけるようになるか、その手立てを学ぶ機会をつくること大切だと思います。」

今、自分が何ができるかという発想で行動を

「すべての人が今、自分の立場で何ができるかという発想で行動を起こす必要があると思う。コロナの時代に一人一人が行動を起

こそうと思うと、先に述べた子どもの頃から自分で考え、自分で決めて自分で行動を起こすという、日常の行動の積み重ねを大切に小・中・高等学校へと教育活動をつなげていく。今、教育を変革していく必要がある。ティーチャーからファシリテーターになっていかないと「つなぐ」人は輩出されていかないと。思います。

会議での発言を一部紹介しながら、これからの地域を支える人材育成に係る議論の様子をお伝えしました。今後、前項の審議内容について議論を進めていく予定です。

会議の中でもありましたオンライン会議にチャレンジしながら、現場の視察や対面での会議で深めていきたいと思っています。

詳しくは、下記にあります生涯学習課ホームページより情報発信しておりますのでご覧ください。

（文責：県生涯学習課社会教育委員会 担当 岩脇）

社会教育委員の皆さんとプレZOOM会議をしてみました。



上記の社会教育委員会会議の中でオンラインによる会議の可能性を検討するためにも我々自身がまず体験してみようということになりました。そこで、8月末に県の社会教育委員の皆さんと事務局職員で試しのズーム会議を行ってみました。

初めてズームをされた方もありましたが、事前に通信環境の確認も行いながら、当日はなんとか全員が繋がり、短時間ではありましたが、濃密な意見交換ができました。

- 【日程】出席者9名*3回
- 10:55 ズーム会議へ接続
 - 11:00 ズーム会議開始（まずは近況報告）
 - 11:15 話題提供10分
 - 11:25 ブレイクアウトルーム（4人で交流）
 - 11:35 全体交流 ★45分間でしたが、一人一人の声が聞け顔が見えて遠隔とは思えないつながり方でした。
 - 11:45 終了



★今後の研修会等のご案内★

日時	内容	場所
10月19日（月）	他分野連携型研修会（オンライン受講可）	県庁東館7階大会議室
11月5日（木）	滋賀県社会教育研究大会	県庁東館7階大会議室
1月22日（金）	学校を核とした地域力強化プラン研修会	県庁東館7階大会議室
2月中旬	第2回社会教育委員会会議	県庁（予定）

県生涯学習課ホームページ
におねっと

滋賀県社会教育委員会会議のページ



社会教育の情報発信をしております。